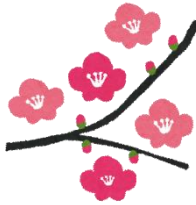


おはよ



兵庫県障害児学校教職員組合(障教組)
神戸市中央区北長狭通5丁目2-10
高教組会館内
No.15 2021.2.17

ニュース速報

西宮市内に特別支援学校を新設

～ 2022年開校へ ～

県教委は次年度の予算(案)で阪神間の生徒増に対応するため「阪神南地域特別支援学校(仮)」(西宮市)の新設を発表しました。

私たち障教組は特別支援学校の過大過密問題を解消するため広く県民に呼びかけ、20年間にわたり新設を求める署名に取り組み、阪神北(川西市)や阪神南(西宮市)の新設につながりました。

2022年(令和4)4月に開校(小、中学部)する計画で、既存の施設を利用することにより早急な対応が期待できます。ただし校区割が未確定であり、2年間は高等部が開設されないため、現在の中学部生徒をはじめ、これから小中学部へ入学を検討している方々も先行きが見通せず不安を感じていることでしょう。新設により教育条件は大きく前進すると期待されますが、子どもと保護者一人ひとりの気持ちを大切に、丁寧な対応を県当局にお願いするところです。

また「こばと聴覚」との一体化も含まれますが、聴覚障害のある幼児が安全に学べる環境を確保する課題もあり、その対応も求められます。

最後に、阪神間の過大過密問題は大きく前進しますが、東播磨地域などの状況も逼迫しています。兵庫のどこにいても、一人ひとりを大切にするゆたかな障害児教育が実現されるよう、取り組みをすすめていたいと思っておりますので、より多くのおみなさんのご協力をお願いします。

新設校の概要	場所、校区(知的)	西宮市田近野町(旧 尼崎養護学校) 校区(知的:西宮市の一部)
	規模、学部等	(知的障害)小中高 240人(聴覚障害)保育相談部、幼稚部 42人
スケジュール	2021(R3)年	既存の校舎(旧 尼養)の改修
	2022(R4)年	小学部、中学部 開校。 新校舎建設へ
	2024(R6)年	高等部、聴覚部門 開校。 小中学部も新校舎に移転

寄宿舎の在り方…なぜ採用試験が実施されないのか?

県教委特支課と『寄宿舎の在り方』について2/8の午後直接話し合いを持ちました。中教審からも『特別支援学校の寄宿舎については特別支援教育における教育的意義も踏まえ、引き続きその機能の維持に努めるべきである』と出されました。それを受けて兵庫県としてはどうとらえていて、どうしようと思っているのか…

結論は、「寄宿舎は通学保証の場というだけでなく、教育的意義をもつところであることは十分認識している。だからこそ専門性が必要であることも理解している。」との回答でした。専門性の維持のためには採用試験を即刻再開させることについては、“採用”を担当する部署に伝えると急にトーンダウン…実施されない理由を問いましたが明かされることはありませんでした。県も認めている教育的意義、それを担う専門性の必要性。そのための採用試験再開に向け、早急に方策を考え実行していく必要があります。



1月24日 ひょうご教育のつどい 障害児教育分科会

越野和之先生の講演

「障害児教育のこれから ～有識者会議報告を読み解きながら～」 報告

障教組からだけでなく、神大附属、障害児学級の先生方、未組の方あわせて60名の参加があり、奈良教育大学の越野先生の講演をオンライン視聴しました。縁あって、京都からの参加も得られちょうど100名での受講となりました。

寄せられた感想からいくつかご紹介し報告に変えさせていただきます。

越野先生ありがとうございました。障害児教育の今までの流れ、その中で今がどのようなところにあるのかイメージできました。さまざまなことがトップダウンで降りてくるが多くなっていることを感じます。現場の声は有識者会議に届かないものなののでしょうか。今の私にできることは日々教員集団でイメージを共有しながら実践を頑張ることですね。子ども達を軸に、考えながら実践を続けていければと思いました。



大変わかりやすく 最近の流れや問題点を理解することができました。発達障害の子どもへの支援にはやはり発達障害教育の専門性も必要であると思います。知的の子ども、ASDの子ども、強度行動障害の子どもには柔軟な人的配置も必要だと思えます。発達障害の子どもに対しての教材研究と行動障害の子どもへの指導に対する両方をこなしていくことは、結果から言えば働き方改革に逆行した負担過多になって行くと思えます。

今回の寄宿舍に関する記述に教育的な意義による寄宿舍の利用が可能になったことがあって良かったと思えます。

参加いただいた先生方ありがとうございました。これからも共に学び合いましょう！

第6回 ZOOM 学習会のお知らせ

2021/2/20(土) 10:00～11:30 実践 討論会

(兼ひょうご教育の集い 障害児教育分科会)

レポート:「高等部生産学習陶工班の取り組みから
～練り込み技法を使ったうつわづくり～」

レポーター:神大附属特別支援学校 下木教諭

内容:今年度高等部生産学習陶工班で進めた教育実践。重度の自閉症スペクトラムの生徒、手指にまひのある生徒が所属する陶工班で実践をどう深めていったかを若手教員が発表します。実際の作業風景もスライドで紹介しながら。

「高等部担当じゃないし…」なんて考えず、教材への向き合わせ方、自分でできたという達成感を感じさせる授業を考えるのは、どの学部であっても共通です。ぜひご参加ください。

参加は障教組ラインもしくは ayakko8996@gmail.com へ。

